

# 教科書本文を活用し、聞くことの資質・能力を育成する授業のあり方 ～要点を捉えることに焦点を当てて～

## 1. はじめに

本校の生徒の英語力の実態に関して、本校生徒が受験する外部試験の結果を分析すると、以下の特徴があることが明らかになった。

- ・他の技能と比べた際に、相対的に聞くことが苦手である生徒が多い。
- ・まとまった分量の英語を読んだり、英語で文章を書いたりする問題と比較すると、語彙や文法に関する問題への正答率が相対的に低い。

こういった現状を踏まえ、中高一貫教育に適した教材を検討する中で、「教科書本文が充実しているため聞いたり読んだりする資質・能力をより一層伸長させられること」と「語彙や文法の体系的な指導ができること」、「検定教科書の強みを活かした豊かな題材をもとに単元を通した指導ができること」を主な理由として『NEW CROWN Infinity』を2025年度より中学1年生から順次採用し始めた。

『NEW CROWN Infinity』を使用しながら学んだ生徒が受験する外部試験の結果を改めて分析すると、例年と比較して良い傾向を示す結果となった。以下に、『NEW CROWN Infinity』を使用した本校の授業実践（主に聞くことの指導に焦点を当てた単元）について紹介する。

## 2. 授業実践

### 2.1 単元名

Safe Clean Water (NEW CROWN Infinity 2 Lesson1)

### 2.2 Lesson Goal

根拠をもって環境問題に関する自分の考えを書くために、文章の要点を捉えよう。

### 2.3 指導のポイント

本単元を通して、生徒が英語の文章を聞いて、文章の要点（話し手の主張）を捉え、根拠をもって自分の考えを書く資質・能力を伸ばすために、以下の表1に示すように①～⑤の5点を指導のポイントとした。

①および②に関しては、教科書本文を活用したり、教科書本文をもとにした文章を作成し（酒井・津久井・佐藤，2026を参考）したりしながら、単元を通して繰り返し文章を聞き、徐々に要点を捉えられるようにする活動を行った。その際には、以下で述べるように「英語の表現」や「話される文章の構成」に着目しながら段階的な指導を行った。

③に関しては、授業で扱った教科書本文を活用しながら、音読やシャドーイング、ディクテーションを行うことで、英語の音声を捉える技能を高める活動を継続して行った。また、教科書本文のディクテーションを日々の家庭学習で行い、授業ではディクテーションの小テストを実施した。こうすることで、教科書本文を繰り返し聞きながら学習をすることができ、聞くことの技能を高めたり、英語の語

彙・文法を定着させたりするサイクルを促した。

④に関しては、①や②の指導を行う際に着目した点を、書くことの指導にも関連させた。捉えた要点(話し手の主張)に対して根拠をもって自分の考えを書く活動にも単元を通して取り組んだ。

⑤に関しては、教科書本文を活用しながら Lesson Goal に関わる活動に継続的・段階的に学習をすることで、英語を使用する様々な機会を設定すると同時に、教科書の文法解説や文法問題集などを活用し当該単元で学習すべき言語材料の知識を整理する活動や家庭学習を設定した。

表1:指導のポイント

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①:事実や話し手の考え、気持ちなどを整理して要点を捉えるために、「英語の表現」に着目すること。</p> <p>②:話し手の主張(要点)を捉えるために、「話される文章の構成」に着目すること。</p> <p>③:「英語の音声を正確に捉える技能を高める練習活動」を継続して取り組むこと。</p> <p>④:自分の考えを根拠をもって書くために、「事実を伝える表現」や、「自分の考えや気持ちを表す表現」、「文章構成」に着目すること。</p> <p>⑤:教科書の文法解説や文法問題集などを活用し、文法の体系的な指導を行い、英語の知識の整理すること。</p> <p>*中間指導等を通じて、①～④のポイントを単元を通して段階的に繰り返し指導する。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 2.4 指導例

以下は、2.3 で紹介した指導のポイントを踏まえた授業(1パート分の3時間)の指導例である。このパートでは、2.3 の指導のポイントの②を中心としながら指導した。

|                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;Lesson1 Get2&gt;</p> <p>Today's Goal (Get2 での目標)</p> <p>根拠をもって自分の考えを書くために、<u>話される文章の構成</u>に着目しながら水問題についてのスピーチの要点を捉えよう。</p><br><p>&lt;1時間目&gt;</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

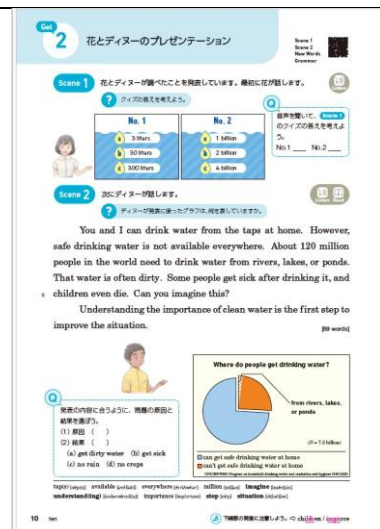
## ◇Listen (Scene 1)

音声を聞き、題材の導入や言語材料の導入を行う。

## ◇Listen (Scene 2)

- ・音声を聞き、水問題に関して自分の考えを伝えるために文章の要点を捉える。そのために、メモを取る。
- ・メモを基に、ペアで自分の考えを伝え合う。
- ・中間指導の際に、文章の中での情報の位置などに着目し、聞き取った情報を整理し、話し手の要点を捉えるに促す。
- ・開本し、聞き取りが難しかった部分に着目して、再度音声を聞きながら、本文を読む。文章の中での情報の位置などに着目し本文を読みながら水問題に関して自分の考えを伝えるために会話の要点を捉える。そのために、メモを取る。
- ・メモを基に、ペアで自分の考えを伝え合う。

[ワークシート] [Lesson 1-2 ワークシート\(PDF\)](#) (3 時間目「◇Write」で使用するライティング欄を含む)



## ◇文法

教科書の文法解説を用いて、新出言語材料の知識を整理する。文法問題集の問題にも必要に応じて取り組む。

## <2時間目>

## ◇Review

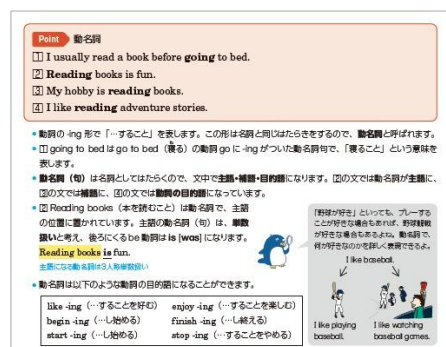
- ・前時の内容を復習する。本時のListenの活動に繋がるQ & A (事実発問、推論発問、評価発問を含める)を行う。
- ・復習の際には、教科書本文を活用し、英語の音声を捉える技能を向上させるための練習活動(音読やシャドーイング等)を行う。家庭学習(自主学習)との繋がりも持たせる。授業のタイミング(週の初回の授業)に応じて小テストを実施する。

## ◇Listen (教科書本文をもとに自作したもの)

- ・音声を聞き、水問題に関して自分の考えを伝えるために文章の要点を捉える。そのために、メモを取る。
- ・メモを基に、ペアで自分の考えを伝え合う。
- ・中間指導の際に、文章の中での情報の位置や First、Second などの表現に着目し、聞き取った情報を整理しながら話し手の要点を掴むように促す。
- ・聞き取りが難しかった部分に着目して、再度音声を聞きながら、本文を読む。
- ・文章の中での情報の位置や First、Second などの表現などに着目し本文を読みながら水問題に関して自分の考えを伝えるために会話の要点を捉える。そのために、メモを取る。
- ・メモを基に、ペアで自分の考えを伝え合う。

## ◇振り返り

自分の考えを伝えるために、話し手の要点を捉えることができたかどうか、そのために何が大



切であったかの視点で振り返る。

### <3時間目>

#### ◇Review

- ・前時の内容を復習する。本時の Write の活動に繋がる Q&A (事実発問、推論発問、評価発問を含める)を行う。
- ・復習の際には、教科書本文を活用し、英語の音声を捉える技能を向上させるための練習活動 (音読やシャドーイング等)を行う。家庭学習 (自主学習)との繋がりも持たせる。授業のタイミング (週の初回の授業)に応じて小テストを実施する。

#### ◇Write

- ・前時や前々時に捉えた内容を踏まえて、“Do you agree with Ms.〇〇’s opinion?” の問いに対しての自分の考えを書く。
- ・中間指導の際に、聞き取る際に意識した、情報を整理する表現や文章の構成を参考にしながら、自分の考えを根拠を持ちながら書くよう促す。

#### ◇振り返り

環境問題の現状や様々な考え方等を多くの人に知ってもらうために自分の考えを根拠をもって書くことができたかどうか、そのために何が大切であったかの視点で振り返る。

[振り返りシート] (単元を通して使用し、2・3 時間目の「◇振り返り」で記入)

| 単元名 : Safe Clean Water                         |    | 〈目標〉<br>根拠をもって環境問題に関する自分の考えを書くために、文章の要点を捉えよう。<br>(聞くこと) |        |
|------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------|--------|
| ①要点を捉えるためにどんな表現等に着目する？<br>②根拠をもって自分の考えを書くためには？ |    |                                                         |        |
| 日付                                             | 内容 | 振り返り(学び・発見・「問い」)                                        |        |
| /                                              |    | <授業資料>                                                  | <英作文等> |
| /                                              |    |                                                         |        |
| /                                              |    |                                                         |        |
| 〈単元全体を通しての学び〉<br>・内容面                          |    | ・言語面                                                    |        |

### 3. まとめ

以上のように、本校の生徒の実態を踏まえ、『NEW CROWN Infinity』を用いた聞くこと（特に、要点を捉えること）の資質・能力の育成を目指した単元の紹介を行った。この単元のように、検定教科書の強みを活かした題材による単元を通して言語活動を行えること、教科書本文が充実しているため聞いたり読んだりする活動が質・量ともに確保できること、そして、語彙や文法を体系的に学ぶことが『NEW CROWN Infinity』を使用することのよさであると感じた。山田（2025）が、中学校の英語の授業において、単元を通して言語活動に継続的・段階的に取り組むことの効果を示唆していることを踏まえると、中高一貫教育用の教材の中で、単元を意識しながら授業作りを行える点が『NEW CROWN Infinity』の大きな良さのうちの一つに感じた。

こういった教材の良さを活かしながら、今後も生徒の英語力の向上を目指して日々授業実践を行っていきたい。

### 引用文献

酒井英樹・津久井貴之・佐藤大樹. (2026). 『中学校英語「読むこと」の「思考力、判断力、表現力等」の指導 3つの読み方が身につく授業のポイント』 三省堂

山田裕也. (2025). 「生徒が『まとまりのある文章が書けた!』と実感できる英語授業」. 『信濃教育会第28回「教育研究論文・教育実践賞」』

### プロフィール

山田裕也（長野県屋代高等学校附属中学校 教諭）

東京学芸大学大学院 教育学研究科を修了（興味のある分野は、テストや評価）。

主な論文に「『読むこと』の評価問題の比較：『知識・技能』と『思考・判断・表現』の観点間の関係に焦点を当てて」（英語授業研究学会紀要, 2025年）や「新大学入試・民間試験の難易度比較—リーディングセクションの設問に焦点を当てて—」（関東甲信越英語教育学会紀要, 2021年）、「新大学入試におけるリーディングセクションの難易度比較—CEFR B1-レベルに焦点を当てて—」（外国語教育学会紀要, 2020）などがある。

